

長畝ふるさと通信

【2017年10月号】

■ 台風21号来襲 また育苗ハウス被災



10月23日、未明から台風21号による強風でまた、育苗ハウス2棟が被災しました。屋根のビニールがビリビリに引き裂かれ、風にあおられてバタバタと大きな音を立てていました。ハウス全体がガタガタと揺さぶられ、近づくこともできないほどです。ここ数年毎年のようにやられています。やはり古くて劣化の目立つハウ

スビニールからやられる訳で、ある程度の期間で更新するのが良いのですが、これだけ大きなハウスともなると費用も馬鹿になりません。被災して保険金が降りるのがせめてもの救いでしょうか・・・翌日は快晴の中、破れたビニールの撤去作業に追われました。



■ 佐渡の棚田から

<小倉・千枚田> 小倉・千枚田は佐渡の新潟側にある松ヶ崎港から山を越えて、相川金山へ抜ける山中街道筋の宿場町として栄えた山奥深い地域にあります。当時、金山の繁栄に伴う人口増加に応じて開墾されたそうです。平成20年ごろから地元生産者だけでは維持できず、オーナー制で出資者を募集し、ボランティア活動の支えもあって何とか維持しています。



<岩首・昇竜棚田> 佐渡の東南、標高350メートルに450枚ほどの田んぼが連なっています。急峻な地形を活かして大小の変形田が天空に昇る龍のように繋がっていることから「昇竜棚田」と呼ばれています。山の斜面が東側を向いているので、とびきりの朝日に迎えられますが、夕日は全く見ることはできません。晴れた日は海の向こうに新潟市内がはっきりと見ることができます。最近では絶景スポットとして外国人観光客も多数見えるそうです。



この他にもいくつかの棚田が佐渡には点在していますが、共通して言えることは地元の高齢化で維持することがかなり難しいということです。平成24年に「佐渡棚田協議会」が発足し棚田の保全活動や情報発信、コメ販売などに取り組んではいますが、失っていくスピードの方が速いように見えます。このことは棚田に限ったことではなく、近い将来私たち平野部で田んぼを耕作する生産者にも起こる問題です。コンビニや外食産業の進出でお米の消費形態がどんどん変化し、価格を維持することが難しくなっています。国の農政も自由競争、弱肉強食で生き残る生産者を優遇するような政策が目につくようになりました。朝から晩まで田んぼ仕事に明け暮れて働く「百姓」では生活できない国になってしまいました。日本の自然は人間が手を入れて維持してきた「風景」ですが、これからは誰が守っていくのでしょうか。消費者のみなさん、まずはその産地のお米を食べてその産地を支えてください。「ふるさと納税」ではなく「ふるさと米飯」です。JAの低温倉庫には



みなさんが毎日たらふく食べても十分な在庫を確保しています。長畝の田んぼ風景をこれからも頑張ってお守りしていきますので、ぜひご協力ください。